甲斐市立竜王北小学校（学校だより）　　No.13　令和５年１月 24 日　文責／古屋

「１月は行く　２月は逃げる　３月は去る」

新たな年がスタートしました。冬休みの間に寂しかった学校も、子どもたちの登校とともに一気に活気づいてきました。やはり、学校の主役は「子どもたち」なのだと改めて感じた瞬間です。

さて、見出しのフレーズは、学校でよく使われる*テッパンフレーズ*です。これは月日の流れの速さを表した言葉で、「１月はあっという間に行きすぎる、28 日しかない２月は逃げるように終わっていく、３月もあっという間に過ぎ去る」ことを、頭文字になぞらえて言ったものです。

すでに１月も下旬となりました。ただでさえ、３学期は他の学期に比べて非常に短い学期である上に、新型コロナやインフルエンザの猛威にさらされ、貴重な時間は否応なしに過ぎ去っていきます。まさに**「１月は行く　２月は逃げる　３月は去る」**の字の如くです。時の流れに置いて行かれないよう、また、感染症に翻弄されないよう、毎日、毎時間を大切にしていきたいものです。

残された日は、１～５年生４１日、６年生は３７日です。（1/24 現在）

教育ボランティア・学生の力・

本校には、山梨大学から７名の学生がボランティアとして支援に来てくれています。各自、週に１回程度の来校ではありますが、大学の授業の合間をみて駆けつけてくれます。将来、教員を目指す学生ですからその意識は高く、積極的に子どもたちと関わりをもってくれています。

主に授業での学習支援が中心ですが、時に遊び相手として、時に話し相手として子どもたちの身近な存在となっています。年の近いお兄さん先生、お姉さん先生は子どもたちに大人気であり、同時に教員のカバーしきれないところに、さっと手を差し伸べてくれる頼もしい助っ人でもあります。

学生が来てくれることで学校は好循環となります。子どもたちへの支援はもちろんのこと、我々教員にとっても「学生に負けられない」「学生のお手本とならねば」と気概を持って臨むことができています。

改めて、支援してくれる学生の皆さんに感謝するばかりです。

厳冬の中にも春が・・

季節は「大寒(1/20)」を過ぎ、「立春(2/4)」を向かえようとしています。１年で最も寒さが厳しい「大寒」の頃は、例年、朝夕の冷え込みは尋常ではありません。今年は幾らか冷え込みも緩いように感じられますが、通学してくる子どもたちの吐く息の白さや田畑の霜柱からは冬の寒さの厳しさを感じます。温暖化といえども、やはり**甲府盆地の冬は「寒い！」**の一言に尽きます。

砂漠で有名なアメリカ・アリゾナ育ちのＡＬＴライアン先生もこの寒さは堪(こた)えるようで、「サムイネ～」「タイヘンネ～」を連発しています。

そうは言ってももうすぐ２月。これから梅が咲き始め、春を感じられる時季となります。厳しい寒さの中にも、次第に暖かい春への変化の兆しが現れてくる頃です。日本には古くから「**三寒四温**(さんかんしおん)」という言葉があります。３日間寒い日の後に４日間暖かい日が続く。寒い日ばかりではなく暖かい日もあるという、春へ向かうこれからの期待を表した言葉です。

いよいよ２月。少しずつ春めいていく様子に、心がほんの少し***躍(おど)り***ます。

立春にまつわる言葉として、

「**東風解凍**(とうふうかいとう)」‥春風が氷を溶かし始める

「**黄鶯睍睆**(こうおうけんかん)」‥うぐいすが鳴き始める

「**立春大吉**(りっしゅんだいきち)」‥福をもたらす縁起のよい言葉

などがあります。

それぞれの意味がまた趣深いですね。